発問例

●三〇五ページ

問 **◎「確かに、その人たちの言うとおりだったのです」（6行目）から、筆者のどのような思いが読み取れるか。**

答 文学が変わっていないという筆者のような考え方は文学史にはなかった。「確かに」そうだが、それでいいのだろうか？という疑問も持っている。

語句の研究

●三〇四ページ

5僕が聞いてきた評判　「評判」とは批評してその是非を判定することを言う。「過去」の小説はすでに「判定」されたものであり、その「評判」は「文学史」のなかで定められている。古今東西の小説を読むなかで、「わたし」はその「評判」に違和感を覚えるようになる。

キー・ポイント　**「文学史」**　文学の発展の歴史。また、それを研究する学問やそれを記述したもの。ここまでの「歴史」や「過去」に関する筆者独自のとらえ方を「文学史」にも敷衍したい。「歴史」が「現在」の「私」自身が参加し形成され得るものだとすれば、「文学史」もそれと同様に、「過去」の作品を「現在」の「私」の視点から評価し直すことが可能となる。

7敬愛　うやまって大切にすること。尊敬し、親しみの気持をもつこと。

注意する語句

えらく…程度がはなはだしいさま。とんでもなく。（＊で用例を示した）

＊君もえらく立派になったものだ。